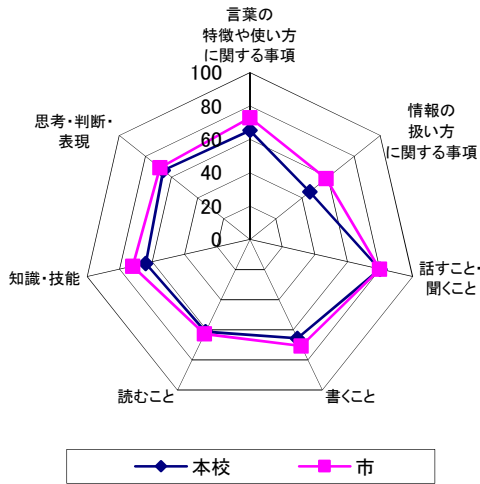


宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.4	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	45.8	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	79.9	79.8	75.9
	書くこと	65.6	70.7	71.7
	読むこと	61.3	62.8	62.5
観点別	知識・技能	64.0	72.0	74.4
	思考・判断・表現	66.4	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

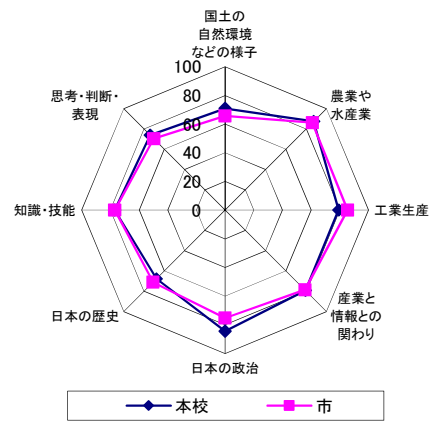
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・市の平均正答率を7.6ポイント下回っている。 ●漢字の読み、書きの問題では、全般的に市の正答率を下回っており、漢字の読み、書きともに知識を増やすことが課題と考えられる。	・既習漢字に関しては家庭学習等で積極的に漢字練習に取り組みせたり、その確認として小テストを行ったりして、理解を深めるようにする。また、新出漢字を学ぶ際に、その漢字を使った熟語集めを行い、それを基に短文を行わせるなど、すぐに活用できるように指導していく。 ・語彙力の育成として辞書の積極的な活用を行うようにする。
情報の扱い方に関する事項	・市の平均正答率を12.7ポイント下回っている。 ●「情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章をまとめて書く」問題では、内容が不十分であったり、無回答である児童の割合が多かったりして、課題と考えられる。	・内容から読み取ったことを書くことに関しては、社会科などの教科と関連を図りながら、読み取ったことを伝え合う機会を多く取り入れ、言語化できるようにする。また、それらを書き表す機会も多く取り入れ、文章化する学習の機会を多く設けていく。 ・意見文や投書、報告文など、相手や目的に応じた文章を書く機会を多く設け、効果的な表現方法を身に付けさせた上で、よりふさわしいものを選択できるように指導していく。
話すこと・聞くこと	・市の平均正答率とほぼ同じである。 ○話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉える問題については、市の平均を上回っている。 ●互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い考えをまとめる問題では、市の平均を下回っており、課題と考えられる。	・グループ学習などで、意見を発表したりプレゼンテーションを行ったりするなど、普段から話合いの時間を多く設けていく。 ・話合い活動では、議論する内容について要旨をまとめて話すよう司会者に指導したり、他者の意見の内容をしっかり受け止めてから自分の意見を述べるよう促したりするなどして、話合いの進め方の工夫を図っていく。
書くこと	・市の平均正答率を5.1ポイント下回っている。 ○考えを明確に伝えるための記述の工夫を捉える問題では、市の平均を上回っている。 ●自分の意見とその理由を明確にして書く問題では、市の平均を下回っており、課題と考えられる。	・書くことに関しては、日記指導や意見文、投書など折に触れて、自分の考えを書く指導を増やしていく。その際に、根拠や理由をもとに意見を述べることを意識させたり、相手意識を持たせたりすることで、説得力のある文章を書くことができるよう指導していく。 ・書いたものに関しては、お互いに読み合う活動も取り入れ、より説得力のある文章に触れられるようにする。
読むこと	・市の平均正答率を1.5ポイント下回っている。 ○説明文の論の進め方を的確に捉える問題では、市の平均を上回っている。 ●物語文の内容を読み取る問題では、特に登場人物の心情について描写を基に捉える問題で、市の平均を大きく下回っており、課題である。	・物語文に関しては、国語の物語文の授業の中で、叙述からどんな心情が読み取れるかなど、感想を書いたり、児童間で交流したりするなどの学習活動を積極的に取り入れていく。 ・初めて読む説明文の内容も理解できるように、普段から分からない言葉の意味調べをして語彙を豊富にする。更に、様々な文章に触れることができるよう、様々な分野の図書を読むことも推奨する。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.8	65.7	67.0
	農業や水産業	87.5	86.1	77.5
	工業生産	79.2	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	79.2	78.6	69.6
	日本の政治	84.4	75.2	65.8
	日本の歴史	67.7	71.1	69.1
観点別	知識・技能	77.0	77.0	72.8
	思考・判断・表現	74.0	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

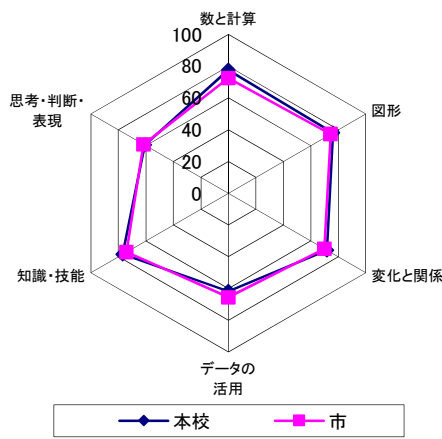
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・市の平均正答率を5.1ポイント上回っている。 ○「日本の周辺の海洋名について理解している。」の校内正答率は市の正答率を13.5ポイント上回っている。 ○「日本の気候の様子に着目して、雨温図から都市の位置を考え、判断している。」の正答率は市を15.5ポイント上回っている。 ●「日本の周辺の国と領土の端について理解している。」の校内正答率は市の正答率を12.6ポイント下回っている。	・地図帳を活用し、周辺の海洋や世界の主な国の位置、日本の国土について継続的に取り扱うようにする。 ・海洋名や国旗などは、練習問題を活用して繰り返し学習の場を設けることで、知識の確実な定着を図る。 ・世界地図や日本周辺の国や様子が分かる掲示物を常時掲示し、折に触れて話題にするなど、学習内容が定着するような工夫をする。
農業や水産業	・市の平均正答率を1.4ポイント上回っている。 ○「米作りの作業の理解とともに、資料を読み取っている。」の正答率は市と同等で83.3%だった。 ○「資料に着目して米作りの生産効率について考え、表現している。」の校内正答率も87.5%と高く、思考を伴う活用問題もよくできていた。 ●「食料生産に関する地図を読み取っている。」の校内正答率は83.3%であるが、市の正答率を若干下回っている。	・稲作体験などを通して、今後も作業工程や作業を行う季節について理解を深める。 ・水産業についても生活に関連付けて考えることができた。 ・実際の様子がイメージしたりできるよう、デジタル教科書等の活用を図る。 ・生産者の立場だけでなく消費者の立場の視点ももてるよう、授業の形態の工夫を図るようにする。 ・教科書や資料集を活用し、図やグラフ等の資料を読み取る機会や読み取った内容を自分の言葉で文章化する学習を多く設けていく。
工業生産	・市の平均正答率を6.2ポイント下回っている。 ●「工業製品の種類について理解している」の校内正答率は市の正答率を4.8ポイント下回っているが、正答率は87.5%と低くはない。 ●「電気自動車に着目して、環境に配慮して生産された自動車について考え、ガソリンカーと比較して表現している。」の校内正答率は市の正答率を7.6ポイント下回っている。	・基礎的な知識の定着を図ることが必要だと言える。知識の活用を図るため、資料やグラフを読み取り、考えをまとめたり、資料を活用して新聞にまとめたりするなど、思考を深める場を設ける。 ・地図帳を活用し、工業地帯・工業地域の立地について地理的な理解を図る。 ・これからの工業生産について自分なりの考えをもち、表現できるような活動を増やしていく。
産業と情報との関わり	・市の平均正答率とほぼ同等である。 ○「情報の正しい受け取り方について理解している。」の正答率は100%だった。 ●「放送、新聞などに着目して、情報産業の役割や責任の大きさについて捉え、判断している」の正答率は、市を7.4ポイント下回っている。	・メディアの種類や身の回りのマスメディアについて、実生活に結びつけて考えることができるよう引き続き指導を行う。 ・メディアリテラシーの一環として、様々な情報を正しく読み取る力を身に付けるとともに、多様な見方や考え方があることに気付けるようにする。
日本の政治	・市の平均正答率を9.2ポイント上回っている。 ○「日本国憲法における天皇の地位について理解している」の正答率は市を17.4ポイント上回っており、十分理解しているといえる。 ○「三審制に着目して、国民の人権を守るための裁判の仕組みについて捉え、判断している。」の活用問題では、正答率が95.8ポイントとほとんどの児童が理解している。	・今年度初めて歴史を学習前に政治を学んだが、政治の仕組みを知った上で歴史を学ぶことで、現在の政治の仕組みの重要性や背景なども含めて理解を深めることができた。 ・知識だけを覚えるのではなく、自分たちの生活と関連付けながら、政治の役割や関わりについて考えていけるようにする。
日本の歴史	・市の平均正答率を3.4ポイント下回っている。 ○「弥生時代の人々のくらしに着目して米作りが広がったことについて考え、判断している。」の活用問題では正答率が91.7%と十分理解している。 ●鎌倉時代の御恩と奉公の主従関係や室町時代の文化についての正答率が低かった。	・教科書の内容の暗記に留まることなく、背景にあった出来事や社会の情勢等も考えられるよう、歴史的事象を多面的に捉えられるような授業の展開を工夫する。 ・それぞれの時代の背景とからめてその時代の文化を理解するなど、物事を多面的にとらえられるような、資料提示や活動内容を工夫する。 ・児童が分かったことや気付いたことを話し合ったり新聞にまとめたりする機会を意識して設定することで、各自の理解を共有し、内容を深めることができるようにする。 ・歴史教育番組などを活用し、児童の歴史への理解を深め、視聴した後に分かったことなどをノートにまとめたり、話し合ったりする場を積極的に設ける。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.7	72.6	71.6
	図形	76.0	74.4	72.0
	変化と関係	71.7	69.8	62.6
	データの活用	61.8	65.5	59.1
観点別	知識・技能	76.8	74.1	68.9
	思考・判断・表現	60.7	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

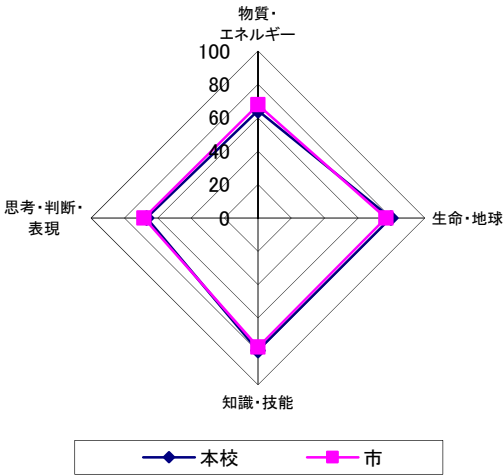
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・市の平均正答率を5.1ポイント上回っている。 ○「真分数＋真分数を通分する計算ができる。」 「分数×分数(約分なし)の計算ができる。」 「分数÷分数(約分あり)の計算ができる」の正答率は90%を超えている。 ●「図を使って、小数倍の文章問題(何倍かを求める)に合った除法の式を選ぶことができる」の正答率は市の正答率を16.2ポイント下回っている。 ●「分数の除法の文章問題にあった式を選ぶことができる」の正答率は、市の正答率を6.2ポイント上回っているものの、50%と低く課題と考えられる。	・基本的な四則計算はある程度定着している。また、分数の計算についてもよく理解していると言えるので、今後も基本的な計算の技能を確実に身に付けられるよう継続して習熟を図る。 ・整数に限らず小数や分数でも基準量、比較量、割合などの関係を正しく把握できるよう、図や数直線などに表して学習内容の理解を深めるような学習過程を積み重ねて、学習内容の定着を図る。 ・文章問題を解く学習では、立式の根拠を明確にし、答えの正当性について話し合う授業の展開を積み重ね、理解を深める。
図形	・市の平均正答率を1.6ポイント上回っている。 ○「直方体を組み合わせた形の面積を求めることができる。」の正答率は95.8%と高い。 ○「点対称な図形について、対応する辺を選ぶことができる。」の正答率は市の正答率を5.8ポイント上回っている。また、「三角柱の展開図から見取り図の辺の長さを読み取ることができる。」では正答率が90%を超えている。 ●「正八角形の作図方法から、円の中心の周りにできる角の大きさと正八角形の1つの内角の大きさを求めることができる。」の正答率は市の正答率と同様であるが、45.8%と低い。	・面積や体積についての基礎的な知識については、ある程度定着している。今後も、引き続き丁寧な指導に努める。 ・複合図形については、具体物を用いたり、言葉、式、図を用いた考えを説明する活動を多く設けたりして繰り返し指導しているので、理解が深まってきたと考えられる。今後も、教材を工夫し分かりやすい授業の展開を続けていく。 ・三角形の内角の和を活用して解く類似問題を、繰り返し経験していく場を設けることで理解を深める。
変化と関係	・市の平均正答率を1.9ポイント上回っている。 ○「図から面積と人数の割合を求め、どのシートが最も混んでいるかを考察できる。」 「道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶことができる。」は正答率が90%を超えている。 ○「値に0がある分離量の平均を求めることができる。」は、正答率が市の正答率を2.3ポイント上回っている。 ●「同時にゴールするために、兄が走る時間と弟が走る速さから、弟が走る距離を何mにすればよいか判断することができる。」は市の正答率を12.8ポイント下回っており、課題とみられる。	・「単位量当たりの大きさ」については、基本的な内容はよく理解できている。今後も、「単位量」の意味や状態を考えられるような授業展開に努める。 ・速さを求める式を選択肢の中から選ぶ問題では、90%以上の児童が正解しているが、計算をして秒速を正確に求められない児童が多いことから、小数の割り算などの習熟を図る。 ・授業で文章問題を解く際には、言葉や図を活用して理解を深め、思考の過程を文章化してノートにまとめていく場を積極的に設けていく。
データの活用	・市の平均正答率を3.7ポイント下回っている。 ○「棒グラフを読み取ることができる。」は市の平均正答率とほぼ同じである。 ●「最頻値について理解している」の正答率は41.7%と低い。また、「もとにする量の大きさが違うとき割合の大小と比べる量の大小は一致しないことを、具体的に説明することができる」でも、正答率は25.0%と低い。	・棒グラフについては読み取れているが、折れ線グラフを読み取れていない児童も多数いるので、引き続き、社会科などの他教科と関連を図りながら、数量の変化や大きさ等を正しく読み取る力の向上に努める。 ・データを比較する際には、調査人数に着目して何人当たりの結果なのかを理解し、グラフの値を何倍かすること等に気付く必要がある。また、終末の問題ということもあり、時間が足らずよく考えることができなかった児童も少なくないと考えられる。このことから、時間を設定して問題に取り組ませる場を設ける。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.2	67.8	64.1
	生命・地球	79.6	76.7	78.3
観点別	知識・技能	79.4	77.4	78.3
	思考・判断・表現	66.7	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・市の平均を3. 6ポイント下回っている。 ○電磁石を強くする方法や濃い塩水から塩を取り出す方法を問う設問については、正答率が市の平均を上回っている。 ●「方位磁針の針のようすから電磁石の両端の極を推測する設問」や「水と食塩水の重さから水溶液の重さを推測する設問」での理解に課題が見られる。	・学習したことを定期的に振り返る場を設けたり、身に付けた知識・考え方・見方を身の回りの事象と関連付けて解説するような学習活動を取り入れたりして、確実な定着を図る。 ・実験での予想や考察を考える際に、自分の言葉でよく考えてまとめることを積み重ねて理解を深める指導を継続して行うことが大切である。
生命・地球	・市の平均を2. 9ポイント上回っている。 ○「台風の動き方がわかり、雲画像の台風がどのような順で動いたかを推測する設問」では、正答率が市の平均より16. 2ポイント高い。 ●生物の間の食う・食われるの関係について問う設問について、絵から推測して言葉を記述することに課題が見られる。また、春頃の天気の変り方を理解する設問でも課題が見られる。	・理科の学習における重要な語句の定着のために、授業の中で分かりやすく説明したり、掲示物等を活用して理解を深めたりすることを、積極的に行っていく。 ・実験結果についてのまとめをしっかりと文章化することによって、学習して分かったことを明確に自覚できるようにし、理解を深める。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習内容の定着と習熟に向けての指導の充実	コロナウイルス対策の休業期間の学習の遅れを取り戻すために、「がっちり学習（朝の学習）」の時間をモジュール授業や学習理解を深める習熟の時間とし、学習の定着を図った。	・調査の結果から、算数や社会の基礎的な力は市の正答率をやや上回っているものも見られたので、おおむね定着していると言える。しかし、各教科において、資料の分析や情報を読み取る力・分かったことや自分の考えを文章化する問題の正答率が低い傾向が見られる。
家庭学習の習慣化に向けた取組	コロナウイルス対策で休業中には、発達段階に応じた「わたしががんばり計画表」を作成し、保護者と協力して計画的に家庭学習に取り組めるようにした。また、「家庭学習スタンダード」と「家庭学習ファイル」を継続し、確実な習慣化を図った。また、学期ごとに「家庭学習強化週間」を設け、保護者とともに学校全体で取り組んだ。	・児童質問紙の結果から、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」の設問に肯定的回答した3年生以上の児童の割合は、約82%となっており、家庭学習への取組はおおむね定着していると言える。内容に偏りのないよう学習を見取り、適切なアドバイスや紹介をすることで、継続して取り組めるよう励ましていきたい。

★市の結果を踏まえての次年度の方向性

・児童質問紙の3年生以上結果から、「グループなどの話し合いに自分から進んで参加していますか」「自分の考えを理由を挙げながら話すことができる」「ものごとをくまびいきしながら考えている」の正答率はおおむね市を上回る結果であった。このことから、総合的な学習の時間など様々な教科の話し合いの場で、自分の考えをもって話し合いに臨む経験を積み重ねた結果であると考えられる。しかしながら、学力調査の記述式回答の誤答が多数あったことを考えると、「自分の考えを書くことやまとめること」については、授業の中で繰り返し学習を積み重ね、記述式に自信をもって解答できる力をつけたい。また、どのような話し方や文章表現をすれば、自分の考えを伝える力が育つのかについての検討を学校全体で取り組んでいきたい。

・児童質問紙の結果から、「本を読むことは好きですか」の肯定的回答は市の回答を上回る学年がほとんどだった。学校では「読書貯金通帳」の活用やラビット本（学校図書館司書による推薦図書）の推奨やプロジェクト（委員会）活動による「読書クイズ・謎解き」「読み聞かせ」など様々な取り組みを行うことで読書の蓄積や幅広いジャンルの本を知る機会を設けてきた。今後も継続して、児童一人一人の読書量を増やすことや、「家読」を保護者と協力して取り組んでいく。

・「パソコンのキーボードを使って、文字を入力することができる」などのパソコンの活用に関する質問に対する肯定的回答のほとんどが市の肯定的回答を大きく上回っている。次年度も継続してICTを活用した授業の展開をしていきたい。

・「学習と生活についてのアンケート」の結果において、肯定的回答率が高い項目については、今後も意識の継続が図れるように指導と支援をしていく。